

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 6年 3月 20日

公表:令和 6年 3月 22日

事業所名:楽田RAKUDA/NEXT 回答職員数:5名

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用定員10名に対して、法令基準より、ゆとりのあるスペースを確保しています	
	2	職員の配置数は適切である	○		法令基準より多い(子ども1.5~2人:職員1人)人数で、職員は資格(保育士・社会福祉士・児童指導員、作業療法士)を持っています	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		トイレや階段には、手すりを設置しています	玄関に少し段差がある為、検討課題にしていますが、歩行に多少の介助を必要とするお子さんには、玄関の出入り時には必ず横に、職員が付いています
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		全体の職員会議を定期的に設けて、業務改善につなげています	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者等向け評価表を活用することにより業務改善につなげています	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに公開しています	新しく業務に臨んだ職員に対しても、周知しています
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	現在第三者による外部評価を行っていません	今後、検討していきます
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		内部研修に加えて外部の講師を招いた研修の機会を確保しています。加えて各職員の経験年数などに応じた「キャリアパス研修」等をはじめ様々な研修を受講しています。また、研修報告書の作成や回覧を行い、内容を職員間で共有し、日々の支援に活かせるようにしています	今年度は特に、防災に関する研修を多く受講しました。その一つとして、県の防災教育センターに行き、震度7相当の地震体験をする等して、各職員が防災に対する意識を高めることができました

適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		可能な限り本人も同席した「3者面談」を設けています。その際には「アセスメントシート」「フェイスシート」を活用しながら状況把握に努めています	アセスメントの必要性を十分に理解した上で、今後もお子さんの「個別支援計画」の作成に努めます
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		S-M社会生活能力検査を使用し状況を把握しています	新しく業務に臨んだ職員に対しても、周知しています
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		定例の会議で活動プログラムについて話し合っています	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		放課後等デイサービスガイドラインにある4つの基本活動をふまえて、季節の行事等取り入れて固定化しないよう工夫しています	活動プログラムについては、実施した内容の評価や考察をして、次に繋げていく事を意識して立てています
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		平日・長期休暇それぞれの時間にできる活動を計画して支援しています	長期休暇時では、提供時間が長く確保できる事から、例えば公共交通機関を利用して外出する計画を立て実践しています
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントで把握した状況に応じて、個別と集団の活動を組み合わせ計画を作成しています	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝と支援前の打ち合わせを極力行い、その日の支援内容・役割分担等確認しています	打ち合わせの記録をファイルに綴じて、当日に多業務で打ち合わせできなかった職員に周知しています
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に送迎があるため、送迎のない職員は終了後に、送迎職員は翌日に振り返りを行いケース記録を作成、ケース記録の回覧・翌日の打ち合わせで気付いた点等を共有しています	当日の支援終了の前に、その日の振り返りや翌日の動きについて、可能な限り児童発達支援管理責任者が口頭で各職員に確認や伝達をして、記録にまとめておき、翌日に共有できるようにしています
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		活動の記録、個々のケース記録をとり、それをもとに支援の検証・改善につなげています	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月ごとにモニタリングをして、計画の見直しの必要性を判断しています	少なくとも半年に一度は職員が集まって評価をしています。また、ケースによっては開催の回数を必要に応じておこなっています
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		組み合わせての支援に努めています。「地域交流の機会の提供」の活動については、市主催の行事に参加したり、民間企業のアート展への参加等、積極的に取り組んでいます	買い物や図書館等への外出を重ね、社会経験の幅が広がるよう努めています。また、今年度は「尾張旭市民祭」への出店をして、地域の方々との交流をしました	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		会議に招集された場合は、状況を最も把握している児童発達支援管理責任者が参加するようにしています	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校と直接、または保護者を通して情報の共有、連絡調整を行っています	各学校の送迎時に、担任と話をするなど、可能な限り連携に努めています
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		事業所には現在、医療的ケアが必要なお子さんは通っていませんが、身体の事については適宜、保護者の方と共有しています	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		支援内容や様子など情報共有と相互理解に努めています	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		地域の相談支援専門員や、進路先の事業所などに、必要に応じて情報提供と共有を図っています	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		同じ法人内にある児童発達支援センターと連携して研修など行っています	関係機関から発信される研修等について、受講できるように努めています
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園等を利用する際に障がいのない子どもと一緒に遊ぶ機会があります	障害のない子どもとの活動がどのような形でできるか検討しています。今年度は市主催のスポーツレクリエーションに事業所として参加する機会を持ちました
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		尾張旭市の自立支援協議会(こども部会)に参加しています	自立支援協議会に参加していること、またその内容を保護者や職員にお知らせしていくようにします
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		半年に一度の面談のほか、必要に応じて面談を行っています。また送迎の際や連絡帳などで保護者と情報共有をしています	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		個々のケースに応じて保護者支援を行っています。ペアレント・トレーニング等の支援は行っていません。外部の講演会や研修のお知らせをお伝えさせて頂くことはありません	今後、検討していきます	

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に契約書、重要事項説明書を用いて丁寧に説明させて頂いています	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じ、電話や面談で相談をお受けしています	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者会等は開催していません。行事等で保護者が集まる機会を作っています	保護者会や保護者参加の活動については保護者の意向を伺い検討します
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情担当者と解決責任者がおり、迅速かつ適切に対応しています	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月機関紙を発行し、活動予定や行った活動の様子やお知らせをお伝えしています。ホームページにも活動予定やお知らせなど載せています	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報のファイルは鍵付きのキャビネットに保管しています。法令遵守マニュアルで大枠を定め、個人情報保護規定でその詳細を定めています。ホームページには個人情報保護方針を掲載し、その内容を示しています。他機関とのやり取りでやむを得ず情報を共有する場合は、同意書の内容に従い必要最小限で行っています	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子どもに対しては短く、簡潔な言葉で伝えるようにしています。また絵カードなどを使いわかりやすく伝えるよう配慮しています。保護者とは連絡帳やメール、電話で意思の疎通や情報伝達のための配慮をしています	自分の意思を何らかの形で表示する事は、ほとんどの子どもの課題でもあるため、活動の中でも力を入れて支援していきます
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年に数回の保育実習のほか、毎年医学部、薬学部、看護学部の学生の地域参加型学習や社会医学実習の受け入れをしています	どのような状況下であっても、地域に開かれた事業運営をしていけるように検討していきます	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定しています。職員は会議の際に見直しや理解を深めています。保護者には面談の際にお知らせしています	消毒や手洗い、マスクの着用など、日々の感染症対策に力を入れている事を職員や保護者の方々と共有しています
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		法令で定める半年に一回(4月・10月)の防災訓練に加えて、月1回の訓練をしています。利用する子ども達と職員が話し合いながら、防災への意識を高めています	実際の災害時に役に立つ訓練ができるよう引き続き検討していきます。例えば、防災食を口にして味を確かめたり、ハザードマップを確認して、避難してみる活動など積極的に実施しています
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		定期的に職員は虐待のセルフチェックを行い、必要に応じて面談を行っています。外部研修に参加の機会を作っています。「虐待防止及び身体拘束等の適正化委員会」を設置して、職員全体で周知していく取り組みをしています	法人の定める倫理要綱を、職員全員が常に念頭に置いて支援していくようにします
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		必要な場合は保護者に事前に説明し、計画に記載するようにしています	事業所では現在、身体拘束をおこなっていませんが、どのような状況だと該当してくるのかについて、常に念頭に置いて業務に臨むようにしています
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		医師からの指示を保護者の方から聞いて対応しています	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハット報告書を作成して回覧をし、職員全員で共有しています。会議で改善案を話し合っています	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計

公表:令和 6年 3月 22日

アンケート期間:令和 6年 1月 10日～令和 6年 1月 31日

事業所名 楽田RAKUDA/NEXT

保護者等数(児童数)18

回収数 13

割合 72%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	77%	23%			定員10名に対して十分なスペースを確保しています
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	46%	54%		適切ですが、もう少し増えると良いです	職員の配置基準を満たして運営しています
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	62%	38%			トイレや階段には手すりが設置してあります
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	100%				面談にて子どもと保護者のご意見を伺っています。S-M社会生活能力検査を用いてアセスメントを行い計画を立てています
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	100%			電車等を利用した活動を提供してくれるのが良いです	調理や製作、木工など、手先を使った活動を提供しています。また、外出の時間を設け、社会参加を織り交ぜた支援に努めています
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	23%	69%	8%		現在交流の機会は多くありません。今後の課題として検討していきます
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	85%	15%			契約時はもちろん、半年に一度の面談時に説明させて頂いています
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	100%				連絡帳や送迎時にお話することで子どもの状況を伝えています。また、面談時に状況や課題について確認しています
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	92%	8%			送迎時や面談時にお話を伺い、必要に応じて助言等をおこなっています
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	23%	62%	15%		現在は保護者会等の開催をしていません。今後、保護者の方の意向をお伺いしていきます
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	85%	15%			苦情ではありませんが、ご意見やご感想を頂くことがあります。改善策を考え迅速かつ適切に対応していきます
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%				連絡帳やメール、電話で意思の疎通や情報伝達をしています
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	100%				「NEXT NEWS」を毎月発行し、日々の活動予定や活動の様子、お知らせを伝えています
14	個人情報に十分注意しているか	77%	23%			個人情報のファイルは鍵付きのキャビネットに保管しています。法令遵守マニュアルで大枠を定め、個人情報保護規定でその詳細を定めています。ホームページには個人情報保護方針を掲載し、その内容を示しています。他機関とのやり取りでやむを得ず、情報を共有する場合は同意書の内容に従い、必要最小限で行っています	

非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	77%	23%		緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定しています。面談時に保護者の方へ周知・説明しています
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	92%	8%	令和6年1月1日の地震が起きた時に、子どもが事業所で実施した訓練を再現していました。支援をしっかりとされていると感じました	毎月、防災訓練を行っています。半年に一度は消防署から「水消火器」を借りて、放水体験をおこなっています。また、避難所までの経路の確認をして、そこまでの模擬避難を繰り返し実施しています。その様子を「NEXT NEWS」に載せるなどして保護者の方に周知しています
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	92%	8%		今後も経営理念にもあります「お子さんの心に寄り添うこと」を心がけ、皆様に喜んでいただけるよう職員一同努めていきます
	18	事業所の支援に満足しているか	92%	8%	今でも満足していますが、運動が出来る場所(トランポリン等)に連れて行って支援して欲しいです	今後も誠実さをもって福祉サービスを展開し、より良い支援をしていきます

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。